

令和5年度第3回 いいづな歴史ふれあい館協議会

会議メモ（要旨）

日時：令和6年(2024) 1月26日(金)

10:00～11:30

場所：いいづな歴史ふれあい館 小ホール

1 開 会（小山）

2 中村協議会会長あいさつ

中村会長 今年の冬は雪が少ないが、道がすべって危ないという話もある。でもこうして日が差ししてくると、春が近いという感じもする。令和5年度第3回目の協議会になりますが、令和7年度20周年記念の特別展・企画展に向けてどういう計画にしてゆけばよいかを具体的に検討していただければと思います。事務局で、前回の会議の記録もまとめていただいているので、それも参考にすすめたいと思います。

3 議 事（進行 中村会長）

（1）令和7年度町制20周年記念特別展について・・・・・・・・・・・・・ 資料2

中村会長 資料のとおり、最初に令和7年度20周年記念特別展についてということで、できれば「令和7年度にはこうしていきましょう」というような、共通認識をもてるようにしてもらえればありがたい。資料2の説明からお願いします。

富樫館長 前回来議では会議記録の4P以降にもありますように、「景観とあわせた歴史の変遷がわかるテーマ」あるいは「古民家の保存」、「喫茶や食べ物が提供できるような取り組み」や「箱膳の話題」、「地区の獅子舞」にスポットを当てられないかといった話題がありました。その中で、検討する時間が足りないということで、今日の第3回目の協議会を開催することになりました。まずは資料2をもとに、前回の続きということでご意見をいただければと思います。

中村会長 今すぐにでもできそうなこと、あるいは将来的には企画できるとよいというようなテーマが出されています。令和7年度の特別展で何ができるかという観点でお願いします。事務局から何かありますか。

富樫館長 前回来説明したように、令和6年度は常設展示の改修という大きな仕事がありますので、令和6年度はその改修と並行して令和7年度の展示の準備に入ることとなります。その中で、無理のない範囲で準備できるものを考えたい。展示のやり方次第という面もありますが、すぐにできそうなもの、下準備が必要なものなどがいろいろあります。ここでアイデアを加えていただければ、そして案になる方向性が見えるようになればと思います。具体的なところでは、たとえば「のろし」とかいろいろの話題があり、戦国時代はかなり人気がある。ただし、のろしを上げるのはイベントとして魅力的ですが、では館の展示室を使って、それと関わりをもつ展示をどんな風にやれるだろうか、となると検討が必要です。

中村会長 これはどうだろうかとか、ご意見いかがでしょうか。

委員 今までの議論とは違いますが、今回能登半島の地震があって、災害への関心が高まっています。この町に過去に起きた自然災害をテーマにしてみてもどうでしょうか。

中村会長 地震でいえば善光寺地震がありますが。

小小学芸員 善光寺地震の前にも地震災害があったはずですが、記録がない。過去には牟礼地区の善光寺地震被害をまとめて2002年に企画展をしたことがある。三水地区については未知数。その企画展は、その頃にちょうど国の中央防災会議で善光寺地震の検証をしていて、その結果を受けたものでした。飯綱町で震度7に相当する揺れがあったようです。

委員 お寺さんに行くと善光寺地震の記録がありますね。家がつぶれて下敷きになったようなことがあったようですが、当時と違う現代の輪島の立派な家でもつぶれているのを見て、今でもこわいと思いました。

馬島教育長 善光寺地震は地質学的な検証はできているのですか。そのメカニズムがわかっているのであれば、現在と比べてみれば意味がありそう。

富樫館長 まさにそれを提案していたのが、基本計画等にも上げていた「ステップ④この町の災害展」になります。すでに展示内容のイメージはありましたが、やるとなればさらに資料を集め、裏付けをとり、牟礼村で過去に開催した展示企画をさらにバージョンアップする必要があります。令和7年に間に合わせるには時間的にきびしいと感じます。もちろん令和7年度以降に企画する価値のあるテーマです。

馬島教育長 そうであれば、7年度に限定せずどこかでやればよい。教育委員会としては、20周年記念はリニューアルした歴史館のお披露目をメインにしてもらえばいいと思っている。そこで無理のない程度にやってもらえれば。

中村会長 旧両村のことを盛り込んだ展示のリニューアルということと、合併して20年というようなことで、創起庵で何かしらの展示のようなものできないかということでお聞きしました。「それなら、こういうことができるんじゃないか」ということがあれば。ところで教育長さんにお聞きしたいのは、20周年にちなんで町として何かイベント等の企画を考えているのですか？

馬島教育長 15周年のときも式典はやったので、記念式典などはやるとは思いますが具体的なことはわかりません。大々的にイベントをやることはないのではと思います。

中村会長 たとえば地域の民俗芸能の神楽などを集めた催しは、ちょうど公民館長さんもおられるので、公民館の催しのような形でできないかとか、いかがでしょうか。

馬島教育長 町としてお祭的な企画をするかどうかはわからない。歴史館のリニューアルオープンに合わせて、獅子舞というようなことは考えられるが、時期的にやってもらえるかどうか。町部局ではそういうことはやらないんじゃないかと思う。

富樫館長 これまでもそうですが、歴史ふれあい館単独で何かをやるよりも、町が何か催しを企画するのであれば、それと関連する歴史的な部分について歴史館が連携しサポートする形もとれる。もしそれができれば町全体で20周年を意識しているということが町民に伝わる機会になると思います。

馬島教育長 20周年に向けて展示をやるとなると、リニューアルと並行してやるのは大変になる。展示物を入れ替えて、体験型の学習スペースをつくるか、溝口会館の機織りをどこかでやってもらおうとか、そういうことを含めたリニューアルのアイデアをお願いしたい。獅子舞でも、たとえば映像で紹介するとか、そういうのをリニューアルに組み込んでいただいて、それを見てもらうようにしてもらえれば。まんがの今昔物語の話に焦点をあてて企画展をやるといったようなことも将来的にはやってもらえればよい。7年度は、どうリニューアルしたのかを見てもらうことでいい。

中村会長 この協議会は、実際に企画運営をするわけではなく、運営をする皆さんにアイデアを提供する立場です。今教育長さんからは令和 7 年度をこういう年にしたいということを伺いました。協議会はその具体案が提示されたら、それにアイデアを付け加えたり意見を申し上げたりするわけなので、「ここはこうしたら」というようなご意見をいただければと思います。

馬島教育長 6 年度にそういうアイデアのやりとりを繰り返し、7 年度に向けてやっていければと思います。

中村会長 さきほど公民館活動ではどうでしょうかとお聞きしましたが、獅子舞などいかがですか？

委員 獅子舞については、三水のときに村政 100 周年で全部集めようとしたけど集まらなかった。当時は今より若い人がいっぱいいてもそんな感じでした。ただ、映像記録はけっこうあるので、映像を見られるようにはできると思います。自分の地元の神社でも 4 時間 5 時間かかるので、全部見るとなればとても時間がかかります。お祭りではやっている人が盛り上がるのでいいですが、ただ見るだけでは難しいかも。20 周年ということで、それにちょっと肉付けをするようなことはできるかもしれません。

馬島教育長 公民館なら、20 周年記念運動会というようなことでやってもらえば。

委員 そのくらいのことであれば。それも実行委員会にはかりますので、「何かやりませんか」という投げかけくらいはできます。獅子舞だけでなく、盃事もなくなっていく時代なので、記録にとっておくことは必要だと思います。「おつもり」という言葉も死語になりつつある。

馬島教育長 そういう失われていく文化のような記録を、ここに来てそういうコーナーで見られるようにするとか、そういう機能を入れてリニューアルすればいいのでは。そういうアイデアをいただければ。

富樫館長 館の基本計画に「2 階に映像アーカイブス鑑賞コーナーを充実させる」という計画が盛り込まれています。今年度の基本設計と、来年度の実施設計の中に組み込むことで検討ができます。

馬島教育長 そういったアイデアをここで具体的に詰めるという話ではなく、アイデアをいただいて、来年度に事務局でその青写真を作って、皆さんにお示しする。それによって進捗していくようにお願いしたい。

委員 去年の食の文化展を終わって思いますが、たとえば 2 階の縄文時代の土器の展示がありますが、あれがどういふふうに使われて、どんなものが煮炊きされたのだらうと思います。火炎土器なんかは主婦の目からすれば使いにくいと思いますが、中には余計な飾りがないような土器もあり、日常での使われ方に興味をもちました。土器などをどのようにして使っていたかという展示を見てみたい。平安時代の遺跡についても、その当時の暮らしや食事などが想像できる展示をぜひこの歴史ふれあい館でやってもらいたい。牟礼宿にもつながっていくかもしれない。この間は干物の流通の話も聞いた。

馬島教育長 ただ作品を並べるのではなく、図で煮炊きした様子を示すだけでも違う。

中村会長 食べごと文化展を通して、今回初めて歴史ふれあい館に来たという人がたくさんいたということです。衣食住に関わることは日常生活との関連で関心の度合いが違ってくというのがよくわかる。また、この地域に海産物がどのように入ってきたのかという物流のことを考えると、以前牟礼駅に毎日のように行商でやって来る人達があったことを思い出す。その人たちは帰りはりんごなどを背負って帰ったようです。今では電車でそういうことをする人などは一人もいない。物流面でも大きな変化があった。

委員 一つ質問です。さっきの展示替えでの話で、どんなスケジュールでどんなリニューアルを考えているのか。通常、博物館では毎年のように新しい展示をしていますが、この館では三水と合併するときにそういう展示替えをしてこなかった。それで町制 20 周年を期に一緒にしようということがあり、資料 4 では分

担して計画を立てるようですが、今回はリニューアルのことを考えなければならないので大変だということですが、そのへんの内容とスケジュールがどうなっているのか。牟礼三水を一緒にしたどういう展示になるのか、創起庵をどんな風に使っていくのか、わからないことだらけです。企画展が単にできないといわれても。合併記念ということなら、地域の人たちの参加型の企画にしたほうが人は来る。一方的なプッシュ型の展示では興味ある人だけが来ることになる。食の展示では“だんごりの会”の皆さんが一生懸命参加してくれて、広報もしてくれた。地域に企画を下ろしながら参加型で盛り上げていかないと。祭だって、展示して見に来てくださいでは「そんなの知っているよ」ってなっちゃいます。実行委員会をつくってもらい、区長会とか公民館とかを通じて住民に参加してもらうようにすれば短期間にでも展示ができるのではないかな。

馬島教育長 全くおっしゃるとおりで、今ここで具体的なことを言っても全体像が見えなくて、これ以上進みようがない。リニューアルといってもただ物を並べ替えるのではなく、照明とか棚とか応用が利くような構造的なリニューアルも限られた予算の中でやりながらになるので、来年度の頭くらいには、こういう風にやるという青写真を事務局からお示しし、その上で具体的なところに入っていきたい。今おっしゃった住民参加型ということも参考にさせていただきたい。

中村会長 案を出していただき、われわれが考えていくということですね。では(1)については、この程度でよろしいでしょうか。それでは(2)以降のほうに移ります。説明をお願いします。

(2) 全町地形模型の製作について・・・・・・・・・・ 資料3

(3) 令和5年度展示改修基本設計委託について・・・・・・・・・・ 資料4

富樫館長 資料をご覧ください。これまで検討していただいた内容を盛り込みながら、委託業者と工期も決まり、年度内に仕上げるために作業を進めています。3階の眺望をもっと生かして、という意見をたくさんいただいているので、3階から見える山々を模型上で確認し、自分がどこに住んでいるのかがすぐわかる。そして、川や用水がその地形の中をどのように流れているのか、牟礼地区と三水地区では用水の引かれ方にどんな違いがあるのか、そういうこともわかるような楽しめる模型にしたい。来年度予定する常設展示の改修内容との関連も考慮して作業をすすめています。

さきほど、「スケジュール感」がわからないというご意見がありました。前回は説明しましたが、基本設計を今年度内にまとめます。資料にある「方針確認」は、基本設計のための業者との打ち合わせ資料の一部です。改修にかけられる令和6年度予算は現時点ではまだ確定していませんが、館からの要求額に対してある程度は認めていただけそうな感触です。「基本計画に沿った改修」を前提にした、実現性のある設計です。キーワードでいえば、「体験」と「交流」と「楽しむ」という観点から、説明型ではなく体験型の展示とします。6年度改修の重点箇所としては、「縄文時代の展示の拡充」そして「戦国時代の展示の拡充」、これまでにやってきた「文化財展」「水の恵み展」「食べごと文化展」の内容を展示に活かす。それと、国立公園の玄関口としての情報提供、そして既存展示内容の古い部分の更新を考えています。限られたスペースの中での改修なので、ある展示の新設や拡張を行うには、既存展示の見直しや縮小、廃止の検討が必要になります。そのため、生涯学習係の中に私と小山さんと福井さんと広田補佐からなるプロジェクトを設け、分担して作業をすすめています。基本設計のための展示イメージ原案は、1月中を目途に委託業者に提示する予定です。それに関連し、環境省の国立公園サテライトビジターセンター機能拡充事業というのがあり、デジタルサイネージによる自然公園の紹介を、今回の展示改修に活用させてもらえる可能性があります。来年度は、実施設計と併せて実際の改修を行う予定で、その後令和7年度の20周年となります。その際にもしふさわしい内容のテーマがあれば企画展を考えます。企画するのであれば6年度から準備に入ります。「食べごと文化展」にしても2年3年かけて内容を詰め、ご協力いただいた方々のそれ以前からの長い活動の積み重ねがあって出来た展示でした。形にするだけの作業は数ヶ月でもできますが、相応の時間をかけた準備がないと良い展示にはなりません。

中村会長 ただいまの説明で、改修の重点箇所等はわかりました。これまでの特別展の内容も常設展示に活かされるということなので、来年度に向けて具体的な内容が示されると思います。他にご質問や意見がありましたら、この資料にある内容で進めていくということでしょうか。では、次に移ります。事務局からお願いします。

(4) 令和5年度予定、6年度予定について・・・・・・・・資料5

富樫館長 資料5については、前回の説明からの変更点を示しています。ひとつはいいづな歴史講座のテーマについて、もうひとつは編集集中の紀要の掲載予定についてです。紀要には、このタイミングでないと書いておくことができない内容に変更するということで、「飯綱町の地形模型がどういう模型なのか」について、報告する予定です。令和6年度は展示改修の年なので、まずはそこに集中しなければなりません。そのため、6年度は企画展の開催はせず、令和7年度に企画展のようなものをやるのであれば、その下ごしを6年度に行うという予定で考えています。

中村会長 今の予定について、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。では、次にすすめます。

(5) 富樫館長あいさつ その他

富樫館長 貴重な会議の時間をいただき、恐縮です。この会議は町の条例に基づき、博物館法に依拠して設置されています。協議会は館長が諮問する会議で、委員の方々に答えていただく機会です。今回は、令和5年度最後の協議会ですので、この場で館長という立場に加え、私個人としても、一言お礼を申し上げたいと思います。

私が町から託されたミッションは「歴史ふれあい館のリニューアル」ということでした。令和元年度に着任し、これまで5年間にわたりお世話になってきました。歴史ふれあい館に来て最初に考えたのは、「町制20周年のときに館がリニューアルをしているためには、在任中に何をしなければいけないか」ということでした。ここをこうしたい、あそこもこうしたいということはいろいろありましたが、そこではたと気がついたのが「この博物館は誰のものか」ということでした。もちろん職員のものではないし、教育委員会のもので、町長のもんでもありません。この博物館は町民のもんです。ですから、何か改修をしたいとか、どこかを変えたいというのであれば、それは町民の方々のもつ願いや希望、そういうものを形にするための改修でなければなりません。たとえば改修にあたり、個人の好みとか、誰かの自己実現を先行させて考えるのは筋違いのことだと考えました。そのため、まずは町民の願いや希望は何なのかを知らなければなりません。それを知る手立てとして立ち上げたのが、この協議会です。忘れもしない令和元年11月1日にこの部屋で、この形で、第1回目の協議会が開催されました。それから今日まで15回にわたり、中村会長をはじめとした委員の皆様、熱心にご検討をいただきました。その検討があって「基本構想」と「基本計画」がまとまり、今年度ようやく計画に沿った基本設計にこぎつけることができました。さらに来年度には、基本設計をもとにした改修を行う年になります。そのための予算は近々確定するはこびです。町民や利用者の願いや希望を形にするための改修への道筋が、ここでやっと見えてきました。協議会の皆様のおかげで、歴史ふれあい館が将来に向かって変わることができる、そういうところにまで来られたと思います。

私自身はリニューアルが出来る令和7年までは、どういう形であれ館に勤務する心づもりでいましたが、5年をもって退任となり、残念な気持ちがないわけではありません。ですが、道筋が見えたことにより、憂いなく退任ができます。来年と再来年は計画を形にする大事な年になりますので、その時にはまた協議会の皆様のご意見が頼りになります。どうかこれからも館へのサポートをいただきますよう、よろしく申し上げます。5年間にわたり大変お世話になり、感謝に堪えません。ありがとうございました。

中村会長 ありがとうございました。あと2年というところで館長さんが退任されることは、個人的にも困ったなという気がしています。お聞きするところでは、65歳までという町のきまりの中でということ、本当に残念です。

私自身も5年間、館長さんと一緒にこの協議会を進めさせていただき、大きな夢を皆で語る事ができたこと、実現に向けて検討をすることができました。将来に向けて、この館が町民のための館になるためにはどうしていったらいいかを考えるきっかけにもなりました。町民にとっても、大事な5年間であったと思います。館長さんが退かれた後も、これまで検討されてきたことを大事にしていきたいと思います。また、ここまで一緒に考えてきた仲間ですので、今後もぜひお力を貸していただければと思います。

それでは議事については以上となりますので、事務局にお返しします。

4 事務連絡等

小小学芸員 事務連絡として何かありますでしょうか。

富樫館長 今年度はこれが最後の協議会で、皆様の任期は来年度末までとなっています。そのため、令和6年度における委員の入れ替えはない予定です。来年度は、なるべく早い時期に協議会が開催され、計画内容等を共有する中で、より良い改修ができるようにご意見をいただきますよう、ぜひよろしくお願ひします。

5 馬島教育長あいさつ

馬島教育長 長時間にわたる協議、また今年度の1年間にわたるご協力、本当にありがとうございました。皆様の5年間のご尽力のおかげで、その年その年の特別展も成功させることができました。そして、5年かけて計画してきた館のリニューアルについても、道筋が見えたということです。来年度には実際に動き出すこととなりますが、来年度もまたご指導ご協力をよろしくお願ひします。

それから、富樫館長さんには再任用枠でと町にもお願ひしましたが、65歳が上限ということでした。富樫先生に加わっていただいたことにより、これまでの講演会や出前講座などにおいても、歴史ふれあい館の活動の幅が広がり、町民の方々にも喜んでいただきました。今後につづくいろんな活動も行っただけです。これでおしまいということではなく、ぜひ今後も富樫館長の経験や知識を町民の方々に伝えていただければと思います。よろしくお願ひします。

来年度予算については、町の査定があり、議会の承認があつて決定します。限られた予算の中ではありますが、せいっぱい努力していきたいと思いますので、今後ともぜひよろしくお願ひします。

6 閉 会 (小山)

小小学芸員 それでは、これで閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

以上